

平成29年度 学校経営等の取組・反省

福島県いわき市立桶売小学校



教育目標

知：進んで学ぶ子ども
 体：健康でたくましい子ども
 徳：みんなで助け合う子ども

重点事項

知

- 1 複式指導・個に応じた指導の充実
- 2 基本的学習習慣・学習態度と読書習慣の確立

体

- 1 体育授業・体育的行事の充実、体育の日常化
- 2 保健・健康に対する関心・実践力の育成

徳

- 1 認め励まし合う学級・学校づくり
- 2 道徳教育・心を育てる体験活動の充実
- 3 異学年・地域の方々・他校との連携・交流

知：1 複式指導・個に応じた指導の充実

- (1) 日々の授業の充実のための教室訪問と現職教育
 - 教師、児童の授業の様子からの話合い・アドバイス
 - 主題に基づく研修、一般研修の計画的・継続実践
 - 学校評価（児）勉強分かる：前・後期 100%
- (2) 外部講師を招いての研修会、授業研究会の実践
 - 市教育長、県・市指導主事等による参観・指導
 - 同一指導主事（3回）による算数科参観・指導
 - 学校評価（保）分かりやすい授業：前・後期 100%
- (3) 若手教員の授業力、指導技術向上に関する取組
 - 児童掌握、学級経営等に関する日常的な指導助言
 - 校長室便り「コーヒーブレイク」の発行
 - 週学習指導計画案へのアドバイス・励まし
- (4) 複式指導テキスト「複式指導OK作戦」の活用
 - 複式指導の強みを生かした授業実践、一を十に
 - 初めての複式指導の不安解消、授業力向上
 - 学校評価（保）内容定着度：前 90%→後 100%
- (5) ふくしま授業スタンダード週案チェックの活用
 - 自己の指導課題の解決のために具体策を実践
 - 改善がみられたら新たな課題解決具体策の設定
- (6) 「桶売タイム」（朝の時間）による個に応じた指導
 - 繰り返し指導による基礎・基本の内容定着
 - 分かる・できる学習への自信・意欲の高揚
- (7) 「チャレンジタイム」（隔週）による活用力の育成
 - 定着確認シート、発展的問題への取組継続
 - 考えを「学び合う」時間・場の確保



左：自分の考えた解決の方法を担当に説明する1年生。考えを相手に伝えることで、理解がさらに深まる。

右：複式授業で課題に取り組む高学年。6年直接指導、5年生は自力解決学習（間接指導）。



左：県・市の指導主事による学校訪問での授業参観。この後、個別に指導助言をいただく。

右：算数科に特化した授業研究において、同一指導主事を招いての深まる授業事後研究会。

<知1> ○成果と●課題

- 日々の授業・複式指導の充実のための校内・校外研修、講師を招聘しての指導助言などから、子どもたちの分かる・できる学びにつながった。「勉強が分かる」児童 A 評価 70 %→90 %
- 桶売タイムによる基礎的な学力の定着、チャレンジタイムにおける応用力の育成など、全校体制で実施してきた結果、単元末テストや県学力テストでの向上的変容が見られた。
- 異動のサイクルが早いと、複式指導に早く慣れ指導技術等を身に付ける必要がある。日々の教室訪問と指導、複式指導パンフレット活用、教材研究等を通して学力向上のため授業力を身に付ける研修にさらに力を入れていく。

知：2 基本的学習習慣・学習態度と読書習慣の確立

- (1) 「学習の手引き」(ガイド学習)の活用
 - 1 単位時間の学習の進め方についての理解促進
 - ノートの使い方についてのガイド・啓発
 - 間接指導時の学習(自力解決)の進め方理解
- (2) 「学習の約束」パンフレットの指導と活用
 - 学習の身構え、もの構え、心構えの指導
 - 聞き方・話し方・考え方・学習後についての指導
- (3) 「家庭学習の手引き」パンフレットの指導と活用
 - 自主学習の学年に応じたメニュー内容の提示と指導
 - めあて・学習時間・学習内容・学習の約束等の指導
 - 学校評価(児)宿題きちんと：前・後期 100 %
- (4) 読書サポートティーチャーによる読み聞かせ
 - 週2回(火・木)の定期的読み聞かせ実施
 - 発達段階や季節・時事的内容を加味した選書
 - 図書室の環境整備、児童の読書意欲の向上
- (5) 「子どもの読書環境を豊かにする会」読み聞かせ
 - ネパール、イギリスなど各国の昔話の紹介
 - エプロンシアターによる多様な読み聞かせ
- (6) 児童会「図書環境委員会」の活動
 - 委員会児童による「おすすめの本」の紹介合戦
 - 委員会児童による読み聞かせ体験活動
- (7) 「11月読書月間」の取組
 - 図書室の各学年お薦めの図書紹介コーナー設置
 - 「そうだ本を読もう(読書足跡)」コーナー設置
 - 学校評価(児)読書の習慣：前 70 %→後 100 %



左：「家庭学習の手引き」。この他に「学習の手引き」「学種の約束」等のパンフレットを活用。
右：読み聞かせサポートティーチャーの方による「読み聞かせ」。(毎週火曜日木曜日実施)



左：「子どもの読書環境を豊かにする会」の方によるエプロンシアター読み聞かせ
右：図書環境委員による読書バトル。読んでほしい「おすすめの本」の紹介合戦。

<知2> ○成果と●課題

- 家庭学習の内容吟味や手引き活用、宿題チェックカード等の活用により「宿題をきちんとしている」児童 A 評価 70 %→100 %となった。
- 毎週火・木曜日に読書サポートティーチャーの方に来校いただき、魅力ある読み聞かせや図書の紹介をしていただいている。他団体による読み聞かせや児童会委員会の働きかけ、読書月間の取組等もあり「読書の習慣」児童 A 評価 50 %→100 %となった。
- 家庭学習については結果として宿題等を行う形になっているが、「自分から進んで行う習慣」をつけていくことが保護者評価からも課題として分かる。家庭学習スタンダードの活用・指導などを充実させ望ましい家庭学習の習慣化・態度形成に努めていく。

体：1 体育授業・体育的行事の充実、体育の日常化

- (1) 各体育学習カードを活用したためあて学習の推進
 - 走力、泳力、持久力、縄跳びカードへの取組
 - 運動身体プログラムを活用した体育授業の推進
 - 学校評価（児）進んで運動：前 90 %→後 100 %
 - 学校評価（保）進んで運動：前 80 %→後 100 %
- (2) 陸上大会・運動会に向けての「走指導」の充実
 - 活動時間、場所、内容の検討と全校体制での実践
 - 短距離走技術指導と継続的な練習実践
- (3) 「業間運動」の全校体制での計画的・継続的实践
 - 1曲4分46秒間の業間マラソンの継続実施
 - 業間なわとび種目跳び、長縄8の字跳びの実施
 - 業間時体力貯金（筋）活動日（水曜日）の実践
- (4) 体育専門アドバイザーによる体育指導
 - 体育授業における模範演技、技術指導等の支援
 - 体育課題に対するアドバイス、対策等の相談
- (5) 11月持久走記録会と関連させた体力向上の取組
 - 心肺機能を高める運動内容を考慮した体育授業
 - 持久走記録会への学年ごとの目標とタイム測定
- (6) 2月なわとび記録会と関連させた体力向上の取組
 - 縄跳び運動内容を取り入れたウォーミングアップ等
 - なわとび記録会への学年ごとの目標とタイム測定



左：持久走記録会に向けての業間マラソン。
右：2名の体育専門アドバイザーと一緒に授業。



左：全校体制でのなわとび記録会に向けた取組。
右：体力貯金カード活動日の取組の様子。

<体1> ○成果と●課題

- 日々の体育科授業での「運動身体プログラム」の実施、業間マラソン、体力貯金カード活動等により、日常的に体力向上を図った。「自分から運動」児童 A 評価 60 %→80 %となった。
- いわき教育事務所派遣：体育専門アドバイザーの方に、これまで13回各学年の授業に入っただき、模範演技指導や授業サポート等により運動技能向上等につながっている。
- 学校の生活場面では黙々と体力づくり等に取り組む姿が見られるが、保護者評価から、家での「自分から進んで運動」については保護者 D 評価がなくなったものの保護者 C 評価 30 %となっている。家庭でもできる運動メニューや体力貯金カードの見直し等も含め改善していく。
- 課題となっている肥満傾向解消のためにも、「体を動かす心地よさを感じる」ことができる取組を基盤として、業間マラソンやなわとび運動、全員ドッジボール・鬼ごっこなどを今後も全校体制で実施していく。

体：2 保健・健康に対する関心・実践力の育成

- (1) 「保健だより」の定期的発行による啓発
 - 学校課題でもある歯の健康に関する内容発信
 - インフルエンザ情報、風邪等未然防止等の発信
- (2) 「保健室前掲示板」の活用
 - 意図的・計画的掲示物の作成と児童への指導
 - 体験型、児童参加型の掲示物の工夫
- (3) 毎月第1月曜日の保健主事による講話
 - 全校集会時の保健目標・内容の提示と児童への指導
 - 手洗いチェッカーなどの体験型保健指導の実施
- (4) 「すこやかけんさ」の実施
 - 清潔衛生検査、朝ご飯摂取等についてのチェックと振り返り



左：保健室前掲示（インフルエンザ予防等）。
右：保健主事による講話：手洗いチェッカー。

- (5) 給食栄養士の来校による講話、食育・給食指導
 - 箸の持ち方、箸のよい使い方・悪い使い方、姿勢
 - 体をつくる栄養素、ビタミンの話、給食の歴史等
- (6) いわき市栄養教諭来校による肥満防止個別相談会
 - 年3回の継続的個別相談会の実施、変容の確認
 - 個別の体重変化の確認、食生活改善へのヒント
- (7) 「学校保健委員会」の開催・啓発
 - 小中合同開催、児童生徒の保健課題提示と協議
 - 健康であるための日本型食生活の知恵、外部講師
 - 学校評価 (児) 健康安全に生活：前・後 100 %



左：給食栄養士による食育指導（給食時）。
右：体力貯金カード活動日の取組の様子。

＜体2＞ ○成果と●課題

- 保健主事による各働きかけが、子どもの健康保持増進につながっている。
- いわき市栄養教諭による肥満防止等個別相談会では、親子を対象に面談していただき、食生活や生活習慣等の見直しにつながった。
- 望ましい食生活・生活習慣の実践に向けての具体策を実行していく。

徳：1 認め励まし合う学級・学校づくり

- (1) 「学級の係活動」の内容充実、自発的取組の推進
 - 全校児童を巻き込んでの「初のお笑いライブ」
 - 自分たちで「学校が楽しくなる」内容の検討と実践
 - 学校評価 (児) 楽しい学校：前・後 100 %
 - 学校評価 (保) 楽しい学校：前 90 %→後 100 %
- (2) 委員会活動の活動内容の充実
 - 全校集会における図書環境委員のお話の集い
 - 給食時の放送保健委員による「桶売ニュース」発表
- (3) 児童会行事、集会活動での内容充実と主体的取組
 - 1年生を迎える会、七夕集会、お楽しみ会等の実施
 - 陸上大会にのぞむ6年生への「激励会」企画運営
 - 年男年女中心の企画・運営による豆まき集会実施
- (4) 休み時間の楽しい全校遊び活動の
 - 休み時間の全校ドッジボール等の実施
 - 小さい子のめんどろを見ながらの全校遊びの取組
- (5) 朝の会、帰りの会における認め合う場の設定
 - 帰りの会の「今日のいいね！」の発表
 - 友達や担任による価値付け・意味づけ



左：係活動「初お笑いライブ」の披露。
右：楽しいを心に刻んだ1年生を迎える会。



左：心の中の鬼も追い出した豆まき集会。
右：「お楽しみ会」カルタ取り大会の様子。

＜徳1＞ ○成果と●課題

- 「学校は自分たちの力で楽しいものにできるんだ！」「楽しいをみんなで作り上げる！」価値を担任を通して子どもたちが自覚し、全校児童を巻き込んだ企画・運営・実践を通して、そのよさを実感できる子どもが多くなってきている。
- 帰りの会での1日の反省の際、互いに認め合う場面、友達を励ます場面などが多く見られるようになってきた。さらに、互いに認め励まし合う学級・学校になるようにしていく。
- 児童会集会や全校集会行事等では、その事前準備・発表等の練習に時間がとられがちになる。効率的でねらいを明確にした指導に努める。

徳：2 道徳教育・心を育てる体験活動の充実

- (1) 教育活動全体を通じた道徳教育の充実・推進
 - 道徳の時間をはじめ、道徳教育の日常生活での指導
 - 全校集会時の校長による「葛藤場面」道徳指導
 - 授業参観における「全学年道徳授業」の実施
 - 学校評価（児）友達に優しく：前・後 100 %
 - 学校評価（児）思いやりの心：前・後 90 %
- (2) 「地域学習」による郷土愛の育成
 - 全校「桶売探検」縦割り班フィールドワークの実施
 - 総合「桶売の名所案内」キジ牧場等への訪問・取材
 - 学校評価（保）地域のよさ教育：前 80 %→後 100 %
- (3) 「人権教育」の充実・推進
 - いわき人権擁護委員の方々を招聘しての授業実施
 - 肢体、目、耳の不自由な方の疑似体験活動
- (4) 生の劇・音楽等、本物にふれる機会の拡充
 - 「劇団四季」によるファミリーミュージカル鑑賞
 - 「東京都交響楽団」70名のオーケストラの鑑賞
 - 「三味線なでしこ」によるコンサート鑑賞
- (5) 本物にふれる「見学学習」の実施
 - 環境創造センターでの放射線教育体験
 - 郡山スペースパーク展示物等の体験
 - アクアマリンふくしま、浄水場、日産自動車いわき工場等の見学学習



左：全校集会時、葛藤場面を扱った道徳指導。
右：人権擁護委員の方々との模擬体験の授業。



左：郡山スペースパークでの「無重力体験」。
右：スーパーマーケットのバックヤード訪問。

<徳2> ○成果と●課題

- 学校の教育活動全体を通して、善悪の判断等の指導に努めてきた。学校生活全般において、思いやりのある言動、けじめある姿、誠実で一生懸命に活動する姿が多く見られる。
- 地域学習探検先の調査や現地での学習や交流、お礼の手紙等の送付など、一連の地域学習を通して、桶売のよさや温かさ、桶売への誇りをもつことにつながった。
- 劇団四季ミュージカルや東京都交響楽団コンサート、プロの三味線コンサートの鑑賞により、動きや声の出し方など、学習発表会での劇等にその力を生かすことができた。
- 次年度もアリオスでの鑑賞学習、環境創造センター学習、郡山スペースパークでのプラネタリウム体験、いわき市内での見学学習等を計画している。交通費等今後児童数減少に伴って課題となってくる

徳：3 異学年・地域の方々・他校・関係機関等との連携・交流

- (1) 地域の方々の協力による教育活動の充実
 - サツマイモの苗植え、草取り、収穫（祭）の体験
 - 体験活動「昔遊び集会」での交流体験
 - 特別非常勤講師による3回の「毛筆・硬筆指導」
 - 学校評価（保）地域のよさ教育：前 80 %→後 100 %
- (2) 「学校だより」「学校ホームページ」での発信
 - 「学校だより」児童の様子、学校の考え等の発信
 - ホームページにて桶売や児童の様子等の発信
 - 群馬県高崎市からの故郷をなつかしむお手紙受領
 - 毎日 200 ～ 800 の閲覧数（桶売小記事を見ている）
 - 学校評価（保）学校方針分かる：前・後 100 %



左：昔遊びの地域の先生方との収穫祭昼食会。
右：特別非常勤講師の方による毛筆運筆指導。

(3) 川前小・小白井小との連携・交流活動

- 川前小との音楽祭合同出場による9回の合同練習
- 川前中学校音楽教員を招聘しての歌唱指導実施
- 三校交流ゲーム・スポーツ大会・昼食会の実施
- 三校合同修学旅行のテレビ会議による打合せ
- 川前小から葡萄「藤稔り」の贈り物とお礼の手紙
- 川前小・小白井小へのサツマイモの贈り物



左：川前小との音楽祭「合唱」合同練習の様子。
右：他校児童と会津若松市内フィールドワーク。

(4) 関係諸機関との連携

- 川前駐在所警察署員による「交通教室」「防犯教室」
- 消防署員を招聘しての「避難訓練」実施と指導助言
- 東京の消費力開発協会の方、いわき消費生活センターの方々による「消費者教育出前講座」
- いわき税務署の方々による「租税教室」の実施
- 読書サポートティーチャー、体育専門アドバイザー、給食栄養士、他校栄養教諭
- 桶売保育所訪問、園児たちに喜んでもらえる企画・準備・運営の実践

<徳3> ○成果と●課題

- 学校農園での体験活動、昔遊び集会・収穫祭会食での交流、毛筆・硬筆指導、地域学習などにおいて、地域の方々の協力・支援をいただき各学習や活動等が充実したものになった。また、地域への愛着やお世話になった方々への感謝の気持ちを育むことにつながった。
- 毎週発行の学校だより「おけうり」も第40号を超え、毎日更新している桶売小ホームページも数多くの桶売応援団の方々に見ていただいている。今後も継続し子どもたちの様子や学校の方針等を分かりやすく伝えていきたい。
- 川前方部の小学校三校については、毎年実施の三校交流会で1年から顔をあわせている。特に高学年では、毎年「修学旅行」「宿泊学習」のどちらかを隔年実施しているため、今年の修学旅行では、学校をばらしての「混合班」による会津若松市内「班別行動」などでも、協力し合って仲良く楽しい活動につながった。
- 今年度、多くの方々に来校いただき、学校内だけでは難しい「貴重な学び」を経験できた。特に、特に、11月から入っていただいた「読書サポートティーチャー」来校は20回、2学期から派遣の「体育専門アドバイザー」来校も13回を数える。今後も、専門的な視点からの学びの機会を多くし、子どもたちの視野・世界観を広げたい。
- 学年や教科・総合等の特質に合致した地域学習の素材・教材開発等に心がけていきたい。また、人材バンク等の整備にも努め、地域学習を通して、桶売のよさを子どもたちに多くふれさせることができるようにしていきたい。